

マツナガの車いす

# マンモルト ヨウゾ

取扱説明書

保存用

保証書付



愛の輪  
愛のいす

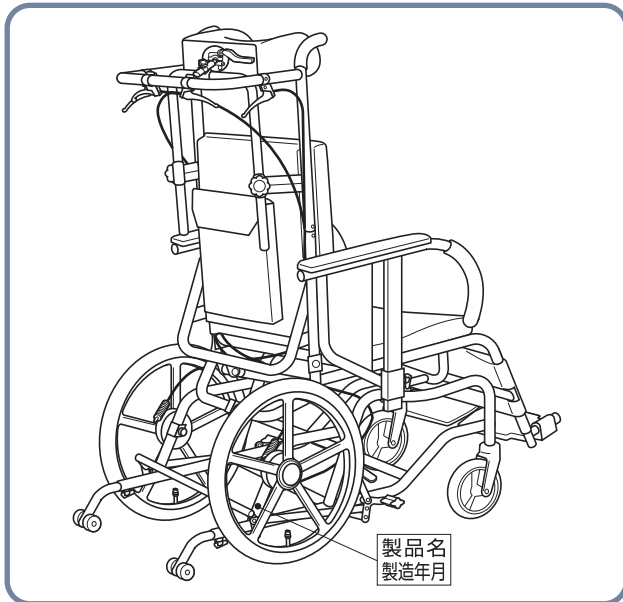


MATSUNAGA

このたびは、(株)松永製作所の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。  
この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意  
事項や正しい使い方が説明してあります。ご使用になる前に、必ずお読みください。  
また、保証書が付いておりますので紛失しないように大切に保管してください。

車いすが、あなたの身体に合わない状態で乗らないでください。  
健康をそこなう恐れがあります。そのような場合は、購入されたお店、かかりつけの病院に  
ご相談ください。

購入された製品の機種名をご確認ください。機種名は、下記位置に表示してあります。  
次に3~4ページの各機種別寸法・機能一覧をご確認ください。



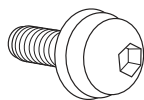
- お買い上げの製品は改良などによりこの「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店、または直接弊社までお問い合わせください。

## 付属品

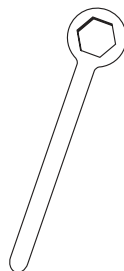
以下の物が揃っているかご確認ください。



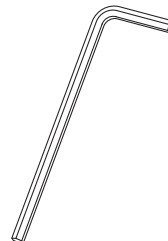
取扱説明書



ボルト(6×15)4本

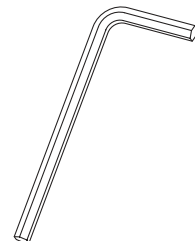


サービススパナ1本  
(対辺13mm)



六角レンチ 1本  
(対辺4mm)

MH-1、1R、1S、1SR  
以外の機種の場合



六角レンチ 1本  
(対辺5mm)

# 目次

<b>安全にお使いになるためのご注意</b>	1
<b>各機種別寸法・機能一覧</b>	3
<b>各部名称</b>	5
<b>組み立て方法</b>	7
<b>安全にお使いになるための使用方法</b>	8
アームサポートの使用方法	8
ブレーキの使用方法	9
ティルティングとリクライニングの方法	10
ヘッドサポートの使用方法	11
フットサポートの調整	13
レッグサポートの使い方	13
グリップの使い方	14
転倒防止の使い方	14
張り調整シート	15
動かし方	15
介助の仕方	16
外出時の注意	17
ご使用の前に	18
<b>もしもこんなトラブルが発生したときは</b>	19
<b>車いすのお手入れの方法</b>	20
シートのお手入れのしかた	20
<b>保証</b>	21

# 安全にお使いになるためのご注意



## 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



## 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

### お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。

## 警告

### (禁止)



しては  
いけない

- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。  
転倒事故の原因となります。
- リクライニングした状態で、背もたれシート上に乗り込まないでください。  
バランスをくずし、車いすが転倒してケガをしたり、フレームパイプが曲がったりして故障の原因となります。
- 車いすを持ち上げるとき、アームサポート、ヘッドサポート、グリップパイプは可動部や着脱部ですので、絶対に持たないでください。  
フレームが曲がったり、可動できなくなったりして故障やケガの原因となります。
- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。  
ブレーキのロックができなくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。  
また、タイヤのパンクの原因となります。

### (強制)



して  
いただく

- 車いすの乗り降り、ティルト及びリクライニング操作のときは必ずブレーキをロックし、車いすが動かない状態にしてからおこなってください。  
車いすが動き、乗っている方が車いすからおちてケガをする危険があります。
- ブレーキレバーとティルトレバーをあやまって操作しないよう十分ご注意ください。  
ブレーキレバーの操作をあやまって、ティルトレバーを握ってしまうと体重の重みで座面が傾き大変危険です。
- ティルトレバーを操作するときは、グリップパイプをしっかりと握って操作してください。  
ティルトレバーを握った瞬間、ユーザーの体重の重みで座面がすぐに傾こうとしますので、ユーザーに不安を与えてしまいます。
- ティルト操作のときは、必ずフットブレーキ（自走タイプはタックルブレーキ）をロックし、車いすが動かない状態にしてからおこなってください。  
車いすが動き、危険です。
- リクライニング操作のときは、必ずフットブレーキ（自走タイプはタックルブレーキ）をロックし、車いすが動かない状態にしてからおこなってください。  
車いすが動き、危険です。
- 車いすに、お乗りになる前や車いすから降りる前に、まず、フットサポートを上げて乗り降りをしてください。  
車いすが転倒し、ケガの原因になります。
- ティルトレバーやリクライニングレバーは操作をする時以外は、絶対にあやまって操作しないよう十分ご注意ください。  
突然予告なく座面や背面が傾くと、ユーザーは大変恐い思いをしますし、場合によっては介助者もケガをする恐れがあります。

- ティルト及びリクライニング操作中やアームサポートの高さ調整及び枕の高さ調整の動作中は、可動部に手や指を入れないでください。  
指などをはさまれる恐れがあります。操作前には、必ず衣服及び手、指の巻込みの恐れがないか、確認してから可動してください。
- 側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。  
車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。

## ⚠ 注意

(禁止)



しては  
いけない

- タイヤを持って車いすを操作しないでください。  
ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。
- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。  
摩擦で、手にケガをする恐れがあります。そのようなご使用をされる場合は、車いす用手袋〈オプション〉をご使用ください。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。  
バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。  
手や指を挟んで、ケガをする原因となります。
- バックサポートパイブのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。  
バックサポートパイブが曲がったり、折れたりして、転倒事故の原因となります。
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。  
使用者が車いすから転落して事故の原因となります。
- 車いすを、横向きに倒して上に物を置かないでください。  
重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因となります。
- 走行中は急停止しないでください。  
転倒事故の原因となります。
- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。  
バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。
- 火気の近くに置かないでください。  
タイヤがパンクしたり、シートが燃え、火災の原因となります。

(強制)



して  
いただく

- バックサポートグリップフレームをバックサポートインナーパイブに差し込むときは、ワイヤーをひっぱらないようにもちあげてください。  
バックサポートグリップフレームと本体フレームはワイヤーでつながっていますので、故障や破損の原因となります。
- アームサポートを下ろすときは、肘パットの内側に指をはさまないようにご注意ください。
- フットサポートの高さは地面より5センチ以上でご使用ください。  
低すぎると凸凹路面や障害物にフットサポートがあたり、転倒する危険があります。
- 坂道を下るとき介助者の方は、車いすを後ろ向きにし、ゆっくり確認しながら走行してください。  
前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。  
車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転倒・転落事故の原因となります。このような、環境条件でご使用される場合は、ワイドキャスト(オプション)をご使用ください。
- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。
- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

# 各機種別寸法・機能一覧

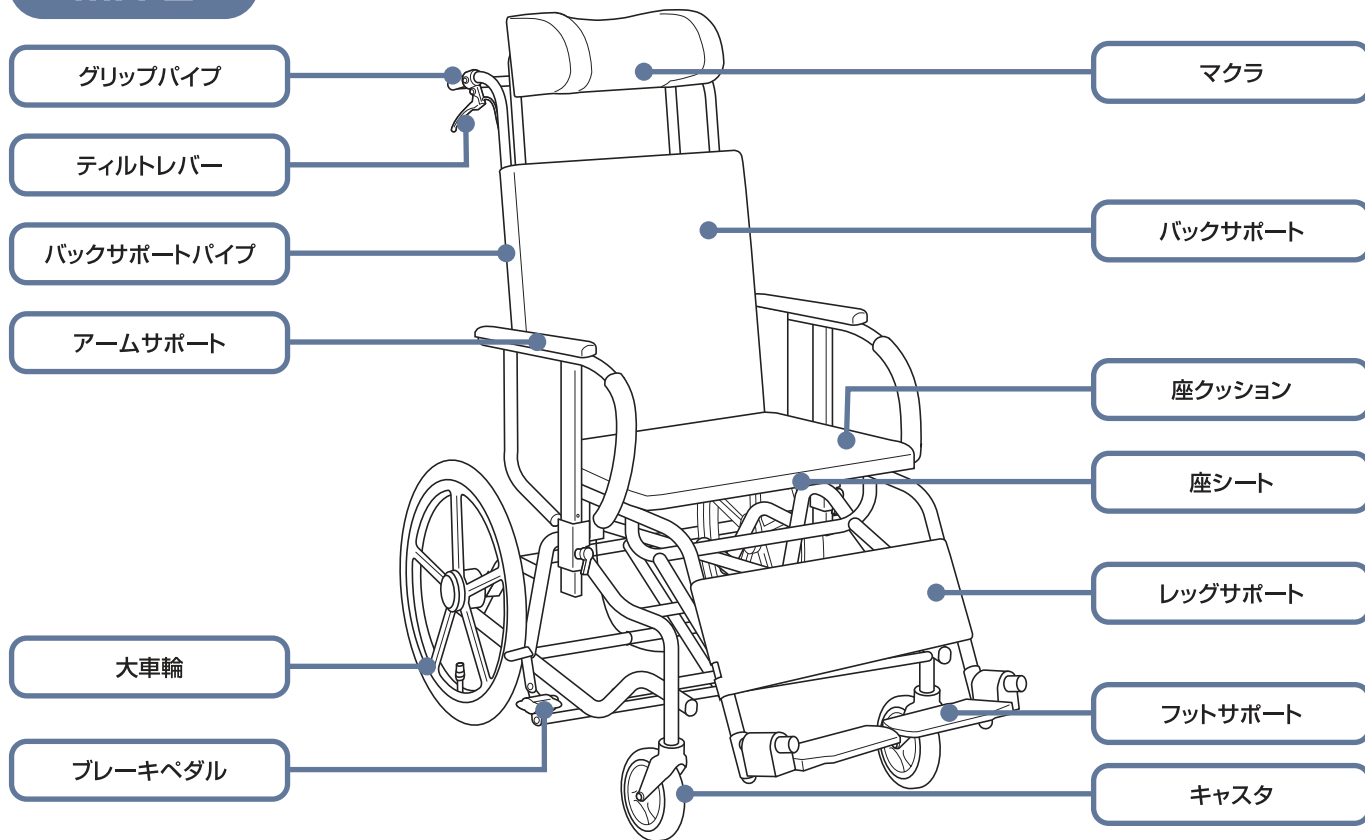
寸 法 / 備 考																
機 種	MH															
	1	2	3	4	1R	2R	3R	4R	1S	2S	3S	4S	1SR	2SR	3SR	4SR
ティルト角度	最大30°								最大17°							
リクラ角度	—				最大35°(90~125°)				—				最大25°(90~115°)			
前座高	430mm※															
後座高	425mm※															
肘内々幅	420mm															
座シート幅	410mm															
座奥行	400mm															
背もたれ高さ	450mm※				475mm※				450mm※				475mm※			
フットレスト長さ	330mm~※															
肘掛け高さ	0、180・200・220・240mm※								255mm※							
マクラ高さ	480~680mm (座シート上面~枕下面)※				505~705mm (座シート上面~枕下面)※				480~680mm (座シート上面~枕下面)※				505~705mm (座シート上面~枕下面)※			
押し手高さ	1025mm /ティルト最大時:745mm				1070mm /リクラ最大時:840mm				1025mm /ティルト最大時:885mm				1070mm /リクラ最大時:925mm			
					[ティルト時]810mm /リクラ最大時:720mm								[ティルト時]940mm /リクラ最大時:735mm			
全 幅	595mm								650mm							
全 高	1040mm /ティルト最大時:745mm				1145mm /リクラ最大時:1050mm				1040mm /ティルト最大時:965mm				1075mm /リクラ最大時:1025mm			
					[ティルト時]1000mm /リクラ最大時:720mm								[ティルト時]995mm /リクラ最大時:910mm			
全 長	1055mm /ティルト最大時:1285mm				1105mm /リクラ最大時:1260mm				1105mm /ティルト最大時:1195mm				1105mm /リクラ最大時:1185mm			
					[ティルト時]1260mm /リクラ最大時:1425mm								[ティルト時]1160mm /リクラ最大時:1345mm			
重 量	17.6kg	17.7kg	17.8kg	19.0kg	19.5kg	19.6kg	19.7kg	20.9kg	18.9kg	19.0kg	19.1kg	20.3kg	20.0kg	20.1kg	20.2kg	21.4kg

※印の寸法は全て、座パイプ上面での寸法であり、クッション上面での寸法ではありません。座クッション厚は、30mmです。

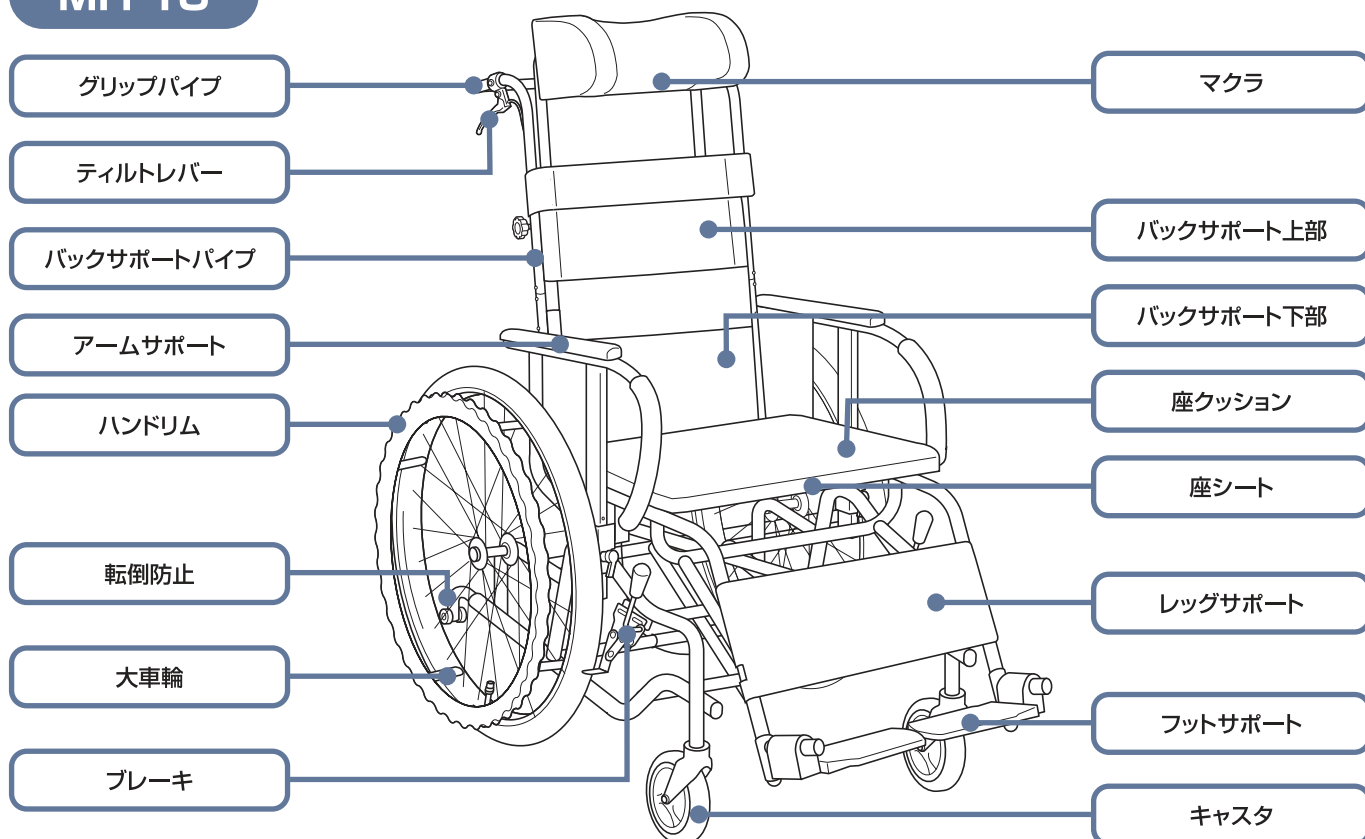
機 能 / 備 考																
機 種 機 能	MH															
	1	2	3	4	1R	2R	3R	4R	1S	2S	3S	4S	1SR	2SR	3SR	4SR
車 輪	16インチプラホイール								22インチ/波形ブラリング							
キャスタ	6インチソリッド															
ティルティング機能	30°								17°							
リクライニング機能	—				35°				—				25°			
アームサポート機能	高さ調整式(座シート面までスライド)								着脱式							
ブレーキタイプ	前後操作式フットブレーキ								タックルブレーキ(オプションにて後方操作式フットブレーキ)							
レッグベルト調整	○								○							
マクラ高さ調整	○								○							
マクラ前後調整	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○
マクラ角度調整	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○
マクラ左右調整	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○
座クッション	○								○							
座張り調整	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○
背クッション	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○
背張り調整	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○
ドラム式ブレーキ	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○	—	○
フレーム材質	アルミ															
フレーム表面処理	シルバーアルマイト															
シート地	ニット:オレンジ、紺(オプションにてビニールレザー:オレンジ、紺)															

# 各部名称

## MH-2

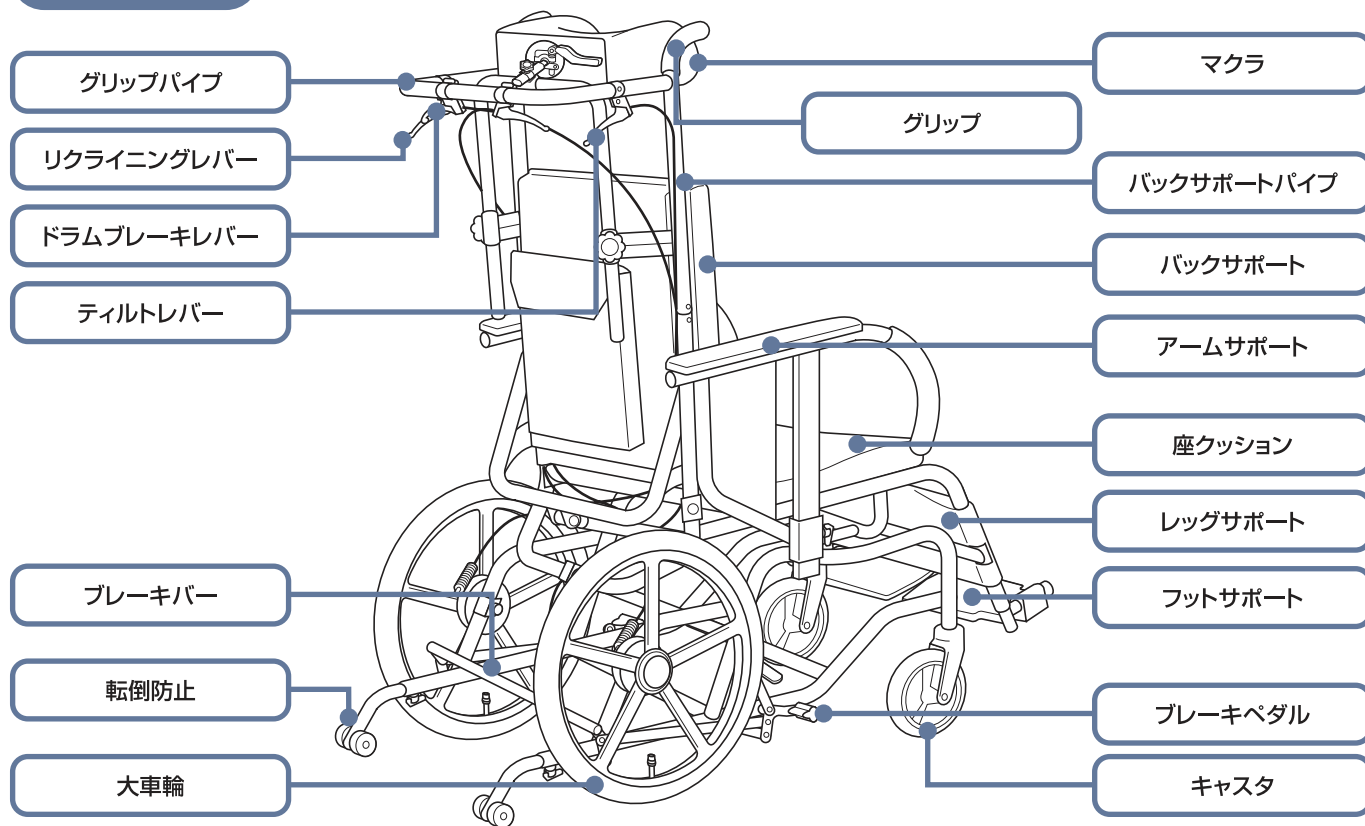


## MH-1S

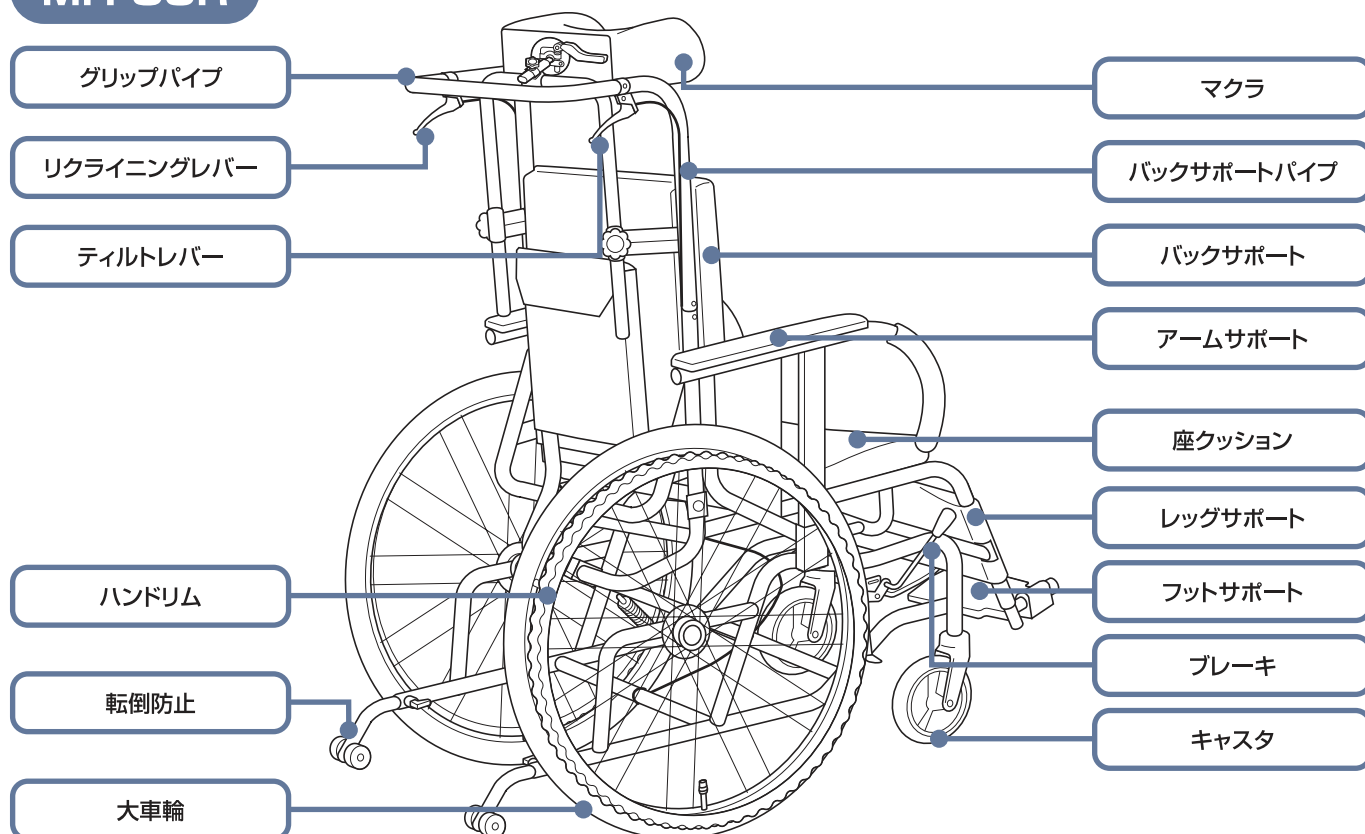




## MH-4R

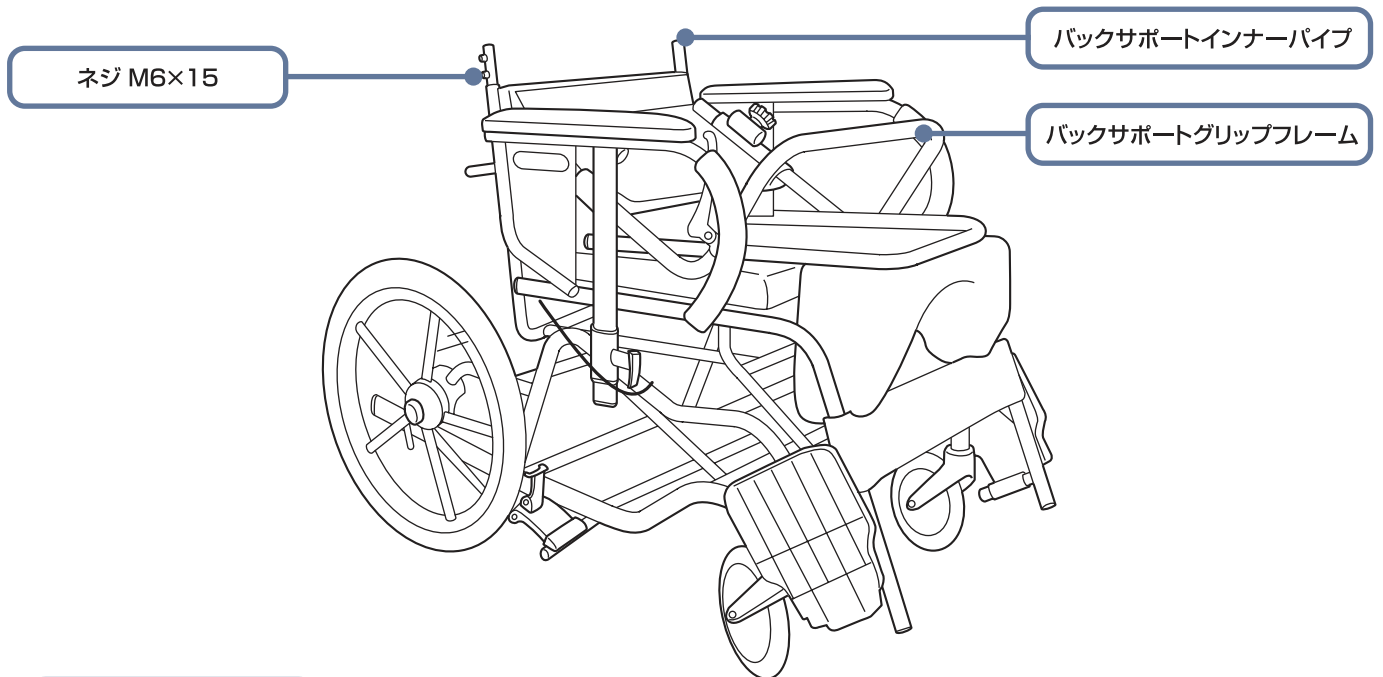


## MH-3SR



# 組み立て方法

## 〈梱包状態〉



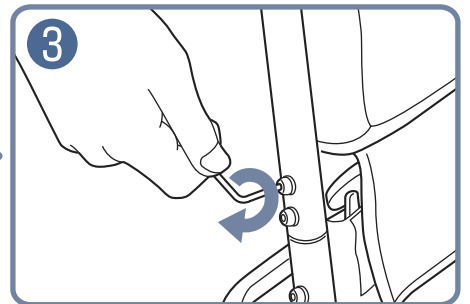
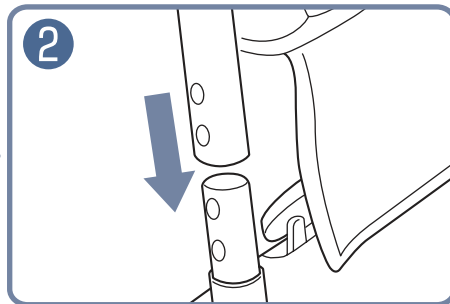
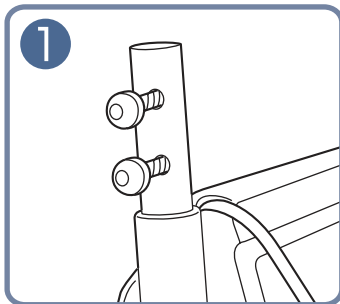
## 組み立てかた

- 座シートの上に置かれているバックサポートグリップフレームをバックサポートインナーパイプにはめ込んでネジで固定してください。

① バックサポートインナーパイプの上部に軽くしめつけてある左右各2本のネジM6×15を付属の六角レンチ(対辺4mm)ではずしてください。

② バックサポートグリップフレームをもちあげ、バックサポートインナーパイプに差し込んでください。

③ ①ではずした左右各2本のネジM6×15を、付属の六角レンチを用いてしめつけてください。



\* 適正トルク 7Nm

**確認** 最後にもう一度六角レンチを用いて、ネジが確実に固定されているか確認してください。

## ⚠ 注意

- バックサポートグリップフレームをバックサポートインナーパイプに差し込むときは、ワイヤーをひっぱらないようにもちあげてください。バックサポートグリップフレームと本体フレームはワイヤーでつながっていますので、故障や破損の原因となります。

していただく

組み立てた後はフットサポートの調整をしてください。(P.13参照)

# 安全にお使いになるための使用方法

## アームサポートの使用方法

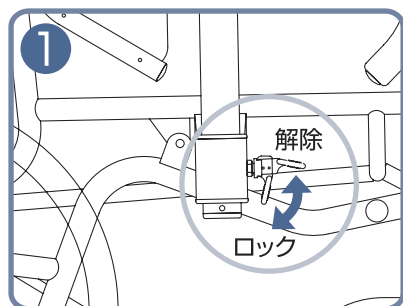
### アームサポートの高さ調整のしかた

MH-1、2、3、4、1R、2R、3R、4R (介助タイプ)

- 身体状況にあわせてアームサポートの高さを4段階で調整することができます。さらに、座シートと同じ高さまで下げることができるので車いすからの乗り移りを容易に行うことができます。

※自走タイプは、アームサポート着脱式となり、高さ調整機能はついておりません。下記の「アームサポートの着脱のしかた」をご参照ください。

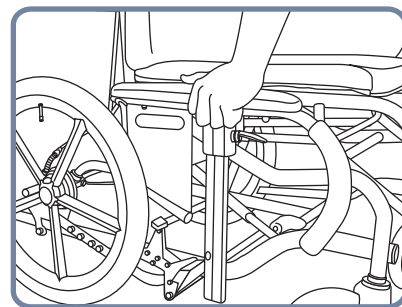
- ①セーフティーロックのレバーをあげ、ロックを解除してください。



- ②アームサポートを上下に動かして高さを設定し、セーフティーロックのレバーを倒してロックしてください。

〈乗り降りの際〉

セーフティーロックを①のように解除し、アームサポートを最も下までおろします。



### 確認

セーフティーロックが確実にロックされていることを確認してください。レバーがぐらぐらしているときは、ロックされておりません。アームサポートをもって少し上下に動かすとカチッと音がし、ロックされます。

### 注意

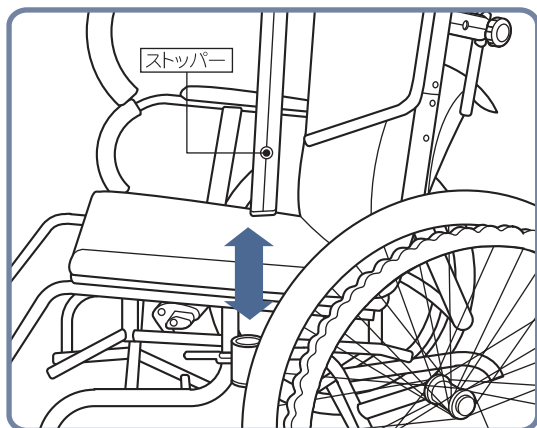
- アームサポートを下ろすときは、肘パットの内側に指をはさまないようにご注意ください。

していただく

### アームサポートの着脱のしかた

MH-1S、2S、3S、4S、1SR、2SR、3SR、4SR (自走タイプ)

- 自走タイプはアームサポートを取り外すことができます。アームサポートを取り外すと、車いすからの乗り移りを容易に行うことができます。



- ①上の①と同様に、ロックを解除し、アームサポートを引きぬいてください。
- ②アームサポートを元の位置に差しこみ、上の②と同様にロックをしてください。

※左右のアームサポートをはめ間違えないようにしてください。

### 確認

セーフティーロックが確実にロックされていることを確認してください。レバーがぐらぐらしているときは、ロックされておりません。アームサポートをもって少し上下に動かすとカチッと音がし、ロックされます。

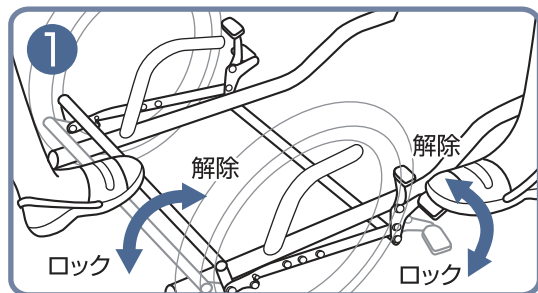
## ブレーキの使用法

### フットブレーキの使いかた

MH-1、2、3、4、1R、2R、3R、4R (介助タイプ)

- 車いすの前後左右どちらからでも、足でブレーキのロック・解除の操作を行うことができます。後輪の前にあるブレーキペダル、もしくは車いす後方にあるブレーキバーを踏むとロックし、蹴りあげると解除します。いずれもペダルとバーが連動しているので、介護の状況にあわせて最も近くにあるペダルやバーを使って操作してください。

※自走タイプには、タックルブレーキが標準装備となります。下記の「タックルブレーキの使いかた」をご参照ください。



- ①ブレーキペダル、ブレーキバーのいずれも足で踏むとロックがかかり、上げるとロックが解除されます。

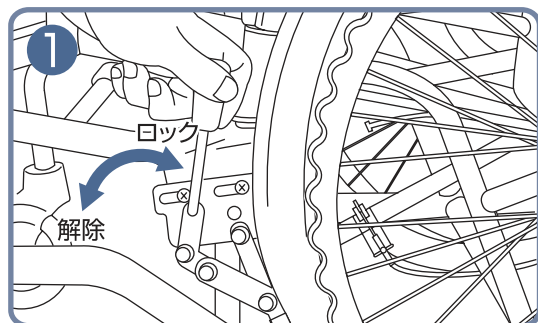
#### 警告

- 車いすの乗り降り、ティルト及びリクライニング操作のときは必ずブレーキをロックし、車いすが動かない状態にしてからおこなってください。車いすが動き、乗っている方が車いすからおちてケガをする危険があります。

していただく

### タックルブレーキの使いかた

MH-1S、2S、3S、4S、1SR、2SR、3SR、4SR (自走タイプ)



手で操作するブレーキです。ユーザー本人または、介助者のどちらにも操作していただけます。

- ①ブレーキレバーを後方にひくとロックし、前方に倒すと解除になります。

#### 警告

- 車いすの乗り降り、ティルト及びリクライニング操作のときは必ずブレーキをロックし、車いすが動かない状態にしてからおこなってください。車いすが動き、乗っている方が車いすからおちてケガをする危険があります。

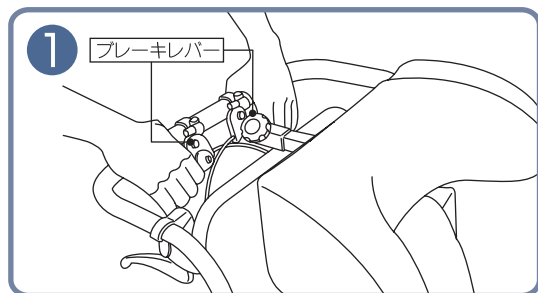
していただく

下記以外の機種にはオプション対応

### ドラム式介助ブレーキ

MH-4、4R、4S、4SR

走行中や下り坂での速度減速ブレーキ・一時停止ブレーキとしてご使用ください。



- ①ブレーキレバーを手前にひくとブレーキがかかり、レバーをはなすとブレーキが解除されます。レバー操作は介助者の方が必ず両側同時に行ってください。

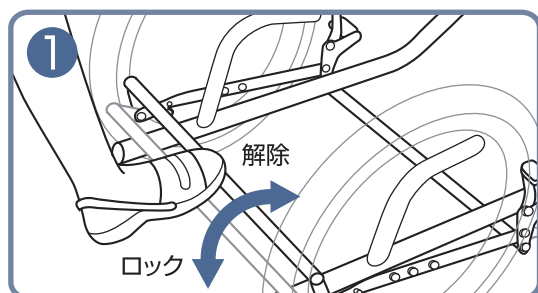
#### 警告

- ブレーキレバーとティルトレバーをあやまって操作しないよう十分ご注意ください。ブレーキをかけるつもりがティルトレバーを握ってしまうと体重の重みで座面が傾き大変危険です。

していただく

### (自走タイプ専用)フットブレーキ

MH-1S、2S、3S、4S、1SR、2SR、3SR、4SR専用オプション



フットブレーキは、後方で操作するタイプの介助者用ブレーキです。

- ①後方のブレーキバーを足で踏むとロックがかかり、上げるとロックが解除されます。

#### 警告

- 車いすの乗り降り、ティルト及びリクライニング操作のときは必ずブレーキをロックし、車いすが動かない状態にしてからおこなってください。車いすが動き、ユーザーが車いすからおちてケガをする危険があります。

していただく

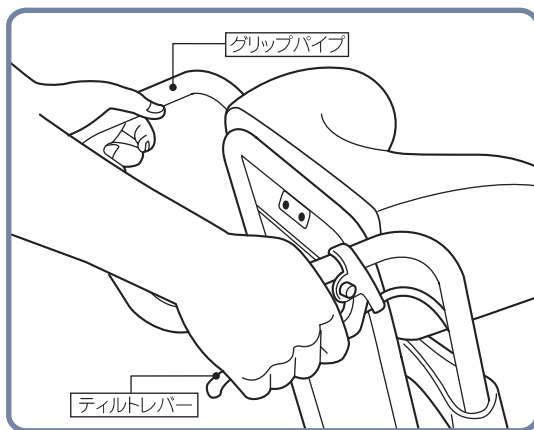
## ティルトレバーとリクライニングの方法

### ティルトレバーの使いかた

全機種

- ティルトレバー（右側のレバー）を操作することにより、座面の角度を調整します。座面は最大30°まで傾きます。ティルト操作のときは、ユーザーが安心できるよう、「倒します」「起こします」と一声かけてください。

※自走タイプのティルト角度は、最大17°までになります。



- ①ティルトレバーを握りながらグリップパイプを持って、座面を倒したり起こしたりして調整できます。
- ②ティルトレバーをはなすと、その角度で固定されます。

### 警告

- ティルトレバーを操作するときは、グリップパイプをしっかりと握って操作してください。ティルトレバーを握った瞬間、ユーザーの体重の重みで座面がすぐに傾こうとしますので、ユーザーに不安を与えてしまいます。

していただく

### 警告

- ティルト操作のときは、必ずフットブレーキ（自走タイプはタックルブレーキ）をロックし、車いすが動かない状態にしてからおこなってください。車いすが動き、危険です。

していただく

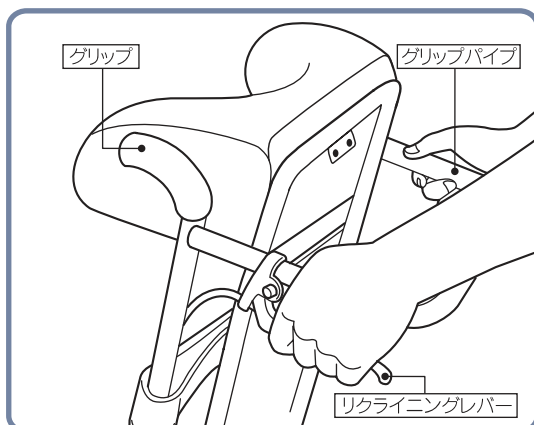
### リクライニングレバーの使いかた

MH-1R、2R、3R、4R、1SR、2SR、3SR、4SR

- リクライニングレバー（左側のレバー）を操作することにより、背もたれの角度を無段階で調整します。背もたれは座面に対して90～125°の範囲で調整できます。リクライニング操作のときは、ユーザーが安心できるよう、「倒します」「起こします」と一声かけてください。

※自走タイプのリクライニング角度は、90～115°の範囲になります。

※本製品は、ユーザーが車いすに乗っている状態での安全性を基準に開発されております。そのため、人が乗っていない状態では、操作はかなり重くなりますので、ご了承ください。



- ①リクライニングレバーを握りながらグリップパイプを持って、背もたれを倒したり起こしたりして無段階で調整できます。
- ②リクライニングレバーをはなすと、その角度で固定されます。

### 警告

- リクライニング操作のときは、必ずフットブレーキ（自走タイプはタックルブレーキ）をロックし、車いすが動かない状態にしてからおこなってください。車いすが動き、危険です。

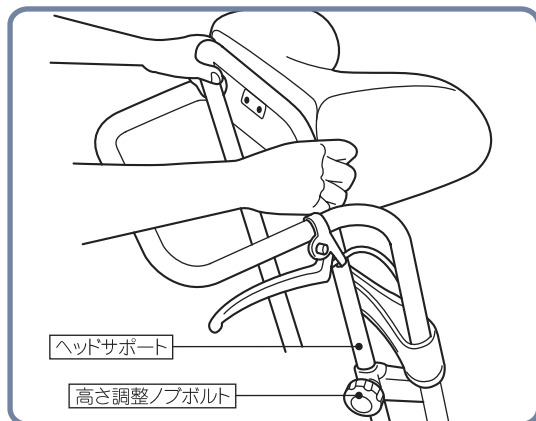
していただく

図は介助タイプです

## ヘッドサポートの使用方法

### マクラの高さ調整のしかた

- マクラの高さを調整します。マクラは首と頭を支える形状になっています。



- ① 高さ調整ノブボルトをゆるめてください。
- ② ヘッドサポートのパイプを両手で持ち、ユーザーに合った高さに調整してください。
- ③ 高さが決まったところで、高さ調整ノブネジを完全にしめてください。

#### 確認

高さ調整ノブボルトが、調整後、完全に固定されているか確認してください。

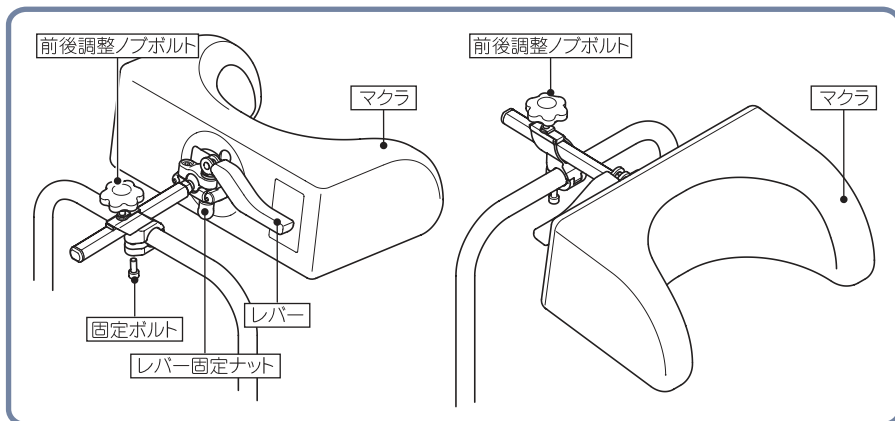
下記以外の機種にはオプション対応

### マクラの前後左右&角度調整

MH-2、3、4、2R、3R、4R、2S、3S、4S、2SR、3SR、4SR

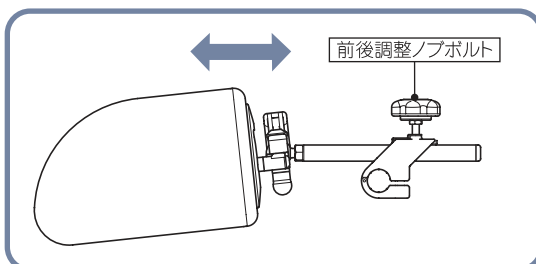
- ユーザー本人の姿勢や頭の形状、位置に合わせて、マクラの前後左右位置や角度を調整します。  
※背シートを張り調整シートでご注文された場合、枕の前後左右&角度調整は標準装備になります。

#### <各部名称>



#### <使用方法>

- ユーザーの状態に合わせて、マクラの前後・左右・角度を調整することができます。  
次の方法を組合わせて、最適な位置でご使用ください。

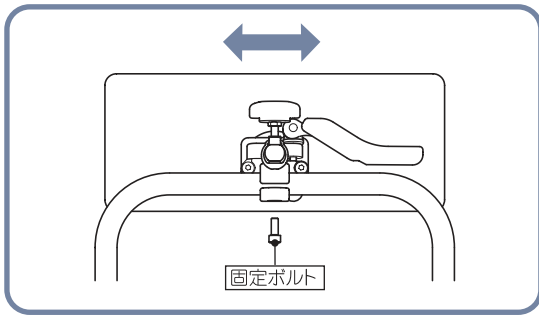


#### <前後調整>

- 前後調整ノブボルトを緩めて、マクラの前後位置を合わせてください。
- 位置が決まりましたら、前後調整ノブボルトをしっかりと締めてください。

#### 確認

前後調整ノブボルトが、調整後、完全に固定されているか確認してください。

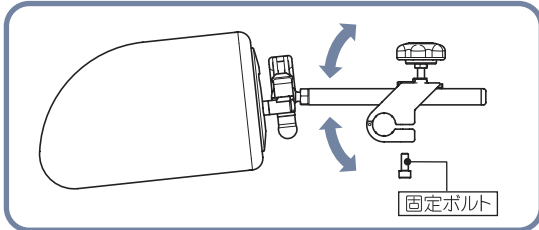


### <左右調整>

- 固定ボルトを付属の六角レンチ(対辺5mm)で緩めて、マクラの左右位置を合わせてください。
- 位置が決まりましたら、固定ボルトをしっかり締めてください。

#### 確認

固定ボルトが、調整後、完全に固定されているか確認してください。

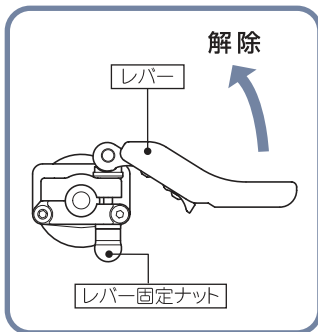


### <角度調整①(固定ボルトによる調整)>

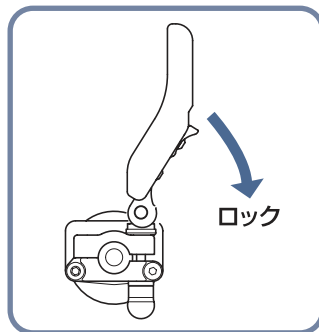
- 固定ボルトを付属の六角レンチ(対辺5mm)で緩めて、マクラの角度を合わせてください。
- 角度が決まりましたら、固定ボルトをしっかり締めてください。

#### 確認

固定ボルトが、調整後、完全に固定されているか確認してください。



固定した状態



解除した状態

### <角度調整②(レバーによる調整)>

- レバーを矢印の方向に上げるとマクラが自由に動きますので、マクラの角度を合わせてください。
  - 角度が決まりましたら、レバーを元に戻して固定してください。
- ※このときマクラが固定されない場合は、レバーを上げ、下側のレバー固定ナットを少し締めてから再びレバーを戻してください。逆にレバーが固くて戻らない場合には、レバー固定ナットを少し緩めてください。

#### 確認

調整レバーが、調整後、完全に固定されているか確認してください。

## ⚠ 注意

- 調整後はマクラがしっかりと固定されているか確認してください
- 表記してある部分以外のボルトは緩めないでください。  
(マクラが固定されず、頭や首などを痛める可能性があります)

してはいけない

## ⚠ 注意

- 持ち上げたり、無理な力を加えたりしないでください。●押手として使用しないでください。
- この製品は、ヘッドサポート(頭の支持)として設計しております。その他の目的では使用しないでください。

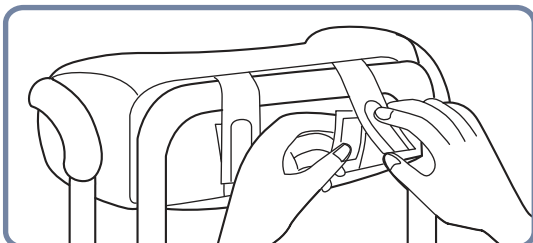
してはいけない

## マクラカバー

## オプション

- マクラの形状に合わせた、取り外し(マジック式)のできるマクラカバーです。カバーはニット地ですのでソフトなさわり心地です。洗濯機で丸洗いしていただけます。

※P.20「シートのお手入れのしかた」を参照してください)



- ①マクラの両サイドにヤマがありますので、まずは片方のヤマにカバーのヤマを半分くらいひっかけ、次は反対側も同様にひっかけて交互にかぶせていってください。
- ②マジックをはり合わせてください。

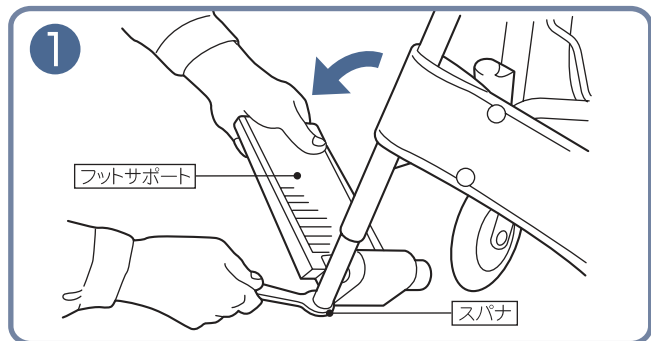
#### 確認

マクラカバーの上下の向きが間違っていないか確認してください。絵のように、マジックテープを上からはるのが正しい向きです。

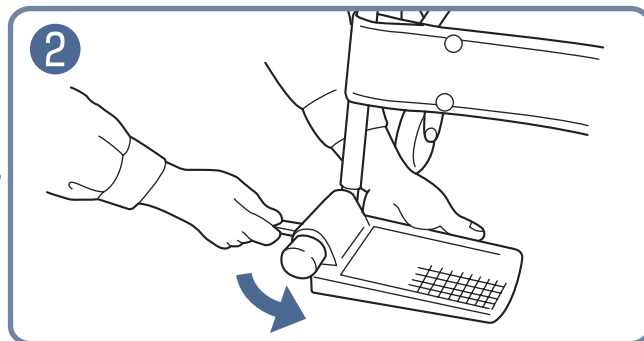
## フットサポートの調整

### ●フットサポートを調整してください。

① フットサポートを外側に少しおし付属品のスパナにて、パイプの先端ボルトをフットサポートが少し動く程度までゆるめてください。



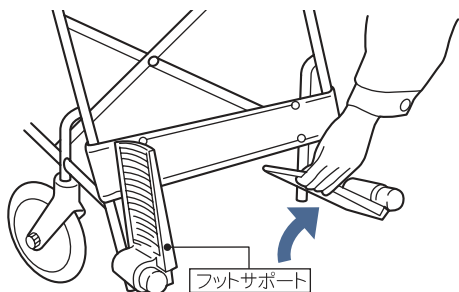
② フットサポートを矢印方向へ回転し、長さ調節をおこない、先端ボルトを完全にしめてください。



\* 適正トルク 20Nm

### ⚠ 警告

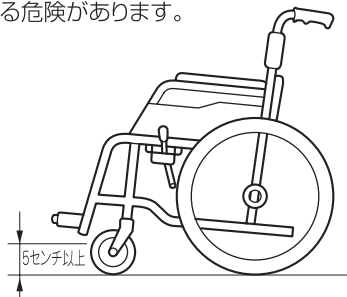
● 車いすに、お乗りになる前や車いすから降りられる前には、まず、フットサポートを上げて乗り降りをしてください。車いすが転倒し、ケガの原因になります。



していただく

### ⚠ 注意

● フットサポートの高さは地面より5センチ以上で使用ください。低すぎると凸凹路面や障害物にフットサポートがあたり、転倒する危険があります。

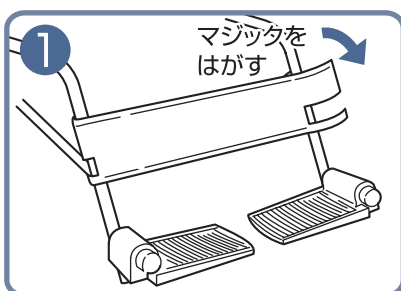


していただく

## レッグサポートの使い方

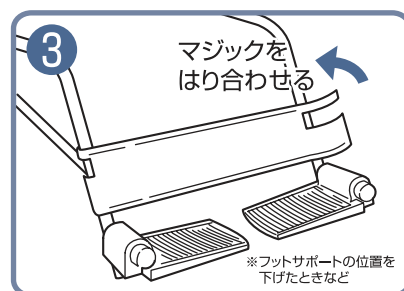
● ユーザーの足の乗せやすさや、フットサポートの長さに合わせてレッグサポートの取り付け高さを変えることができます。

① レッグサポートの裏側のマジックをはがしてください。



② レッグサポートを上下逆に変えることによって、レッグベルトの位置が低くなります。

③ 再度、レッグサポートの裏側でマジックをはり合わせてください。



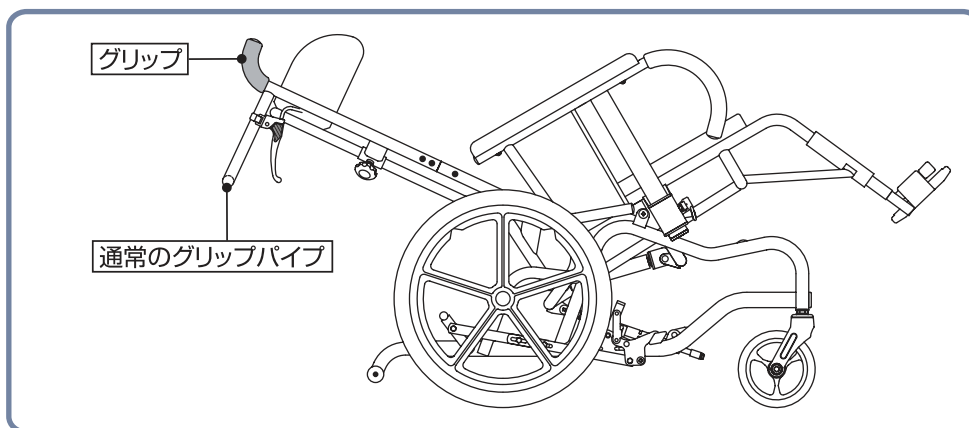
※フットサポートの位置を下げたときなど



## グリップの使い方

MH-1R、2R、3R、4R

- ティルトとリクライニングをさせますと、通常のグリップパイプはかなり低い位置になります。その場合に、図のグリップをお使いください。



下記以外の機種にはオプション対応

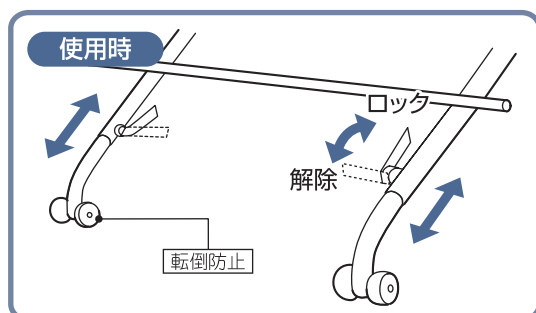
## 転倒防止の使い方

MH-1R、2R、3R、4R、1S、2S、3S、4S、1SR、2SR、3SR、4SR

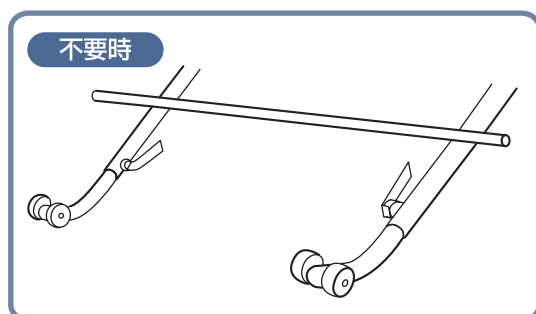
- ティルトとリクライニングをさせた状態で、上半身の方に体の重心がかかった場合の、万が一の転倒を防止するためのものです。転倒防止には、調整穴が3箇所あり、一番奥の位置から、2cmずつ後方に3段階の調整ができます。

※マイチルトのリクライニング機能付の車いすには、転倒防止は標準装備となります。  
リクライニング機能のない介助タイプには、オプションとして取り付け可能です。

※マイチルトの自走タイプには、転倒防止は標準装備となります。



- ①セーフティーロックのレバーを解除し、前後位置を調整してください。
- ②位置が決まったところで、セーフティーロックのレバーをロックしてください。
- ③転倒防止が不要のときは、一度パイプを完全に抜き、キャストが上を向くように向きを変えて差し込み、セーフティーロックでロックしてください。



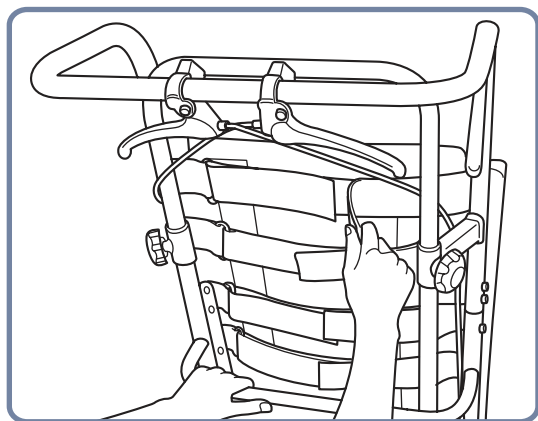
### 確認

セーフティーロックが完全にロックされていることを確認してください。  
(P.8「アームサポートの使用方法」の **確認** を参照してください。)

## 張り調整シート

MH-2、3、4、2R、3R、4R、2S、3S、4S、2SR、3SR、4SR

●ベルトの張り具合によって、ユーザーの身体の形状に合わせ、シートの張りを調整します。



左右同様に調整してください

### 背シート

- ① 背シート裏側のポケットのついているタレをめくってください。
- ② 張りをゆるめるときは、マジックベルトをはがし、調整したところで、再びマジックベルトをはり合わせてください。
- ③ 張りを強くするときには、マジックベルトをはがし、マジックベルトの端をひっぱり、調整したところで再びマジックベルトをはり合わせてください。

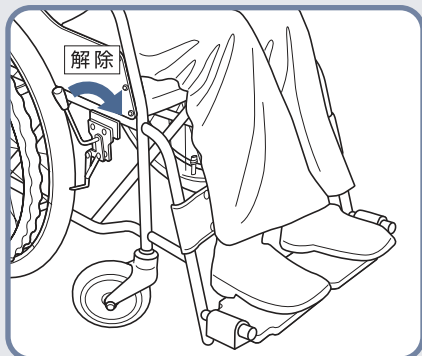
### 座シート

座シートの張り調整ベルトは座シート裏側にあります。

- ① 背シートの手順②③と同様におこなってください。

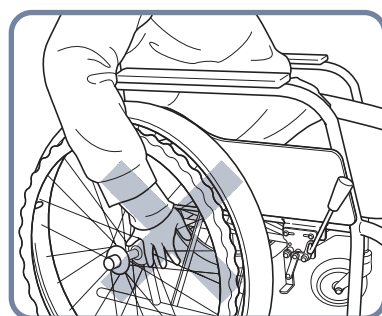
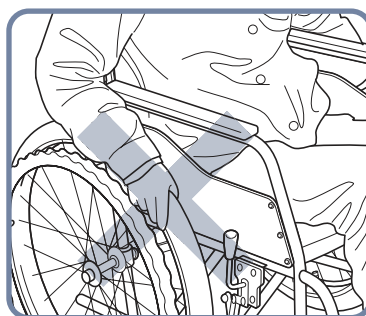
## 動かし方 (自走用車いすの場合)

ブレーキロックを解除する。



ハンドリムを握り、車輪を回転させ移動させる。

ハンドリム



### ⚠ 注意

●タイヤを持って車いすを操作しないでください。ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。

してはいけない

### ⚠ 注意

●スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。摩擦で、手にケガをする恐れがあります。そのようなご使用をされる場合は、車いす用手袋〈オプション〉をご使用ください。

してはいけない

### ⚠ 注意

●走行中、身体を乗り出さないでください。バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。

してはいけない

### ⚠ 注意

●車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。手や指を挟んで、ケガをする原因となります。

してはいけない

※このような場合にはオプションのスポークカバーのご使用をおすすめします。

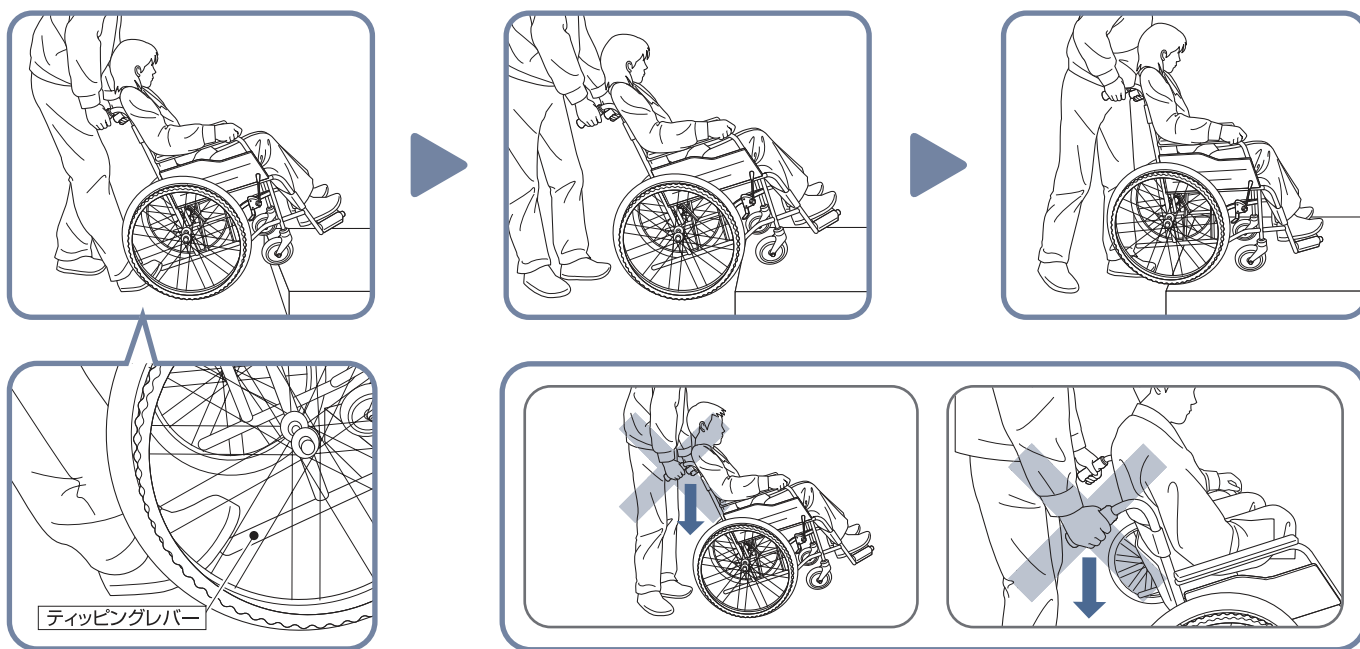
次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。

- ・坂道の登り下り
- ・踏み切りの横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・電車への乗車、下車
- ・段差乗り越え
- ・路面が片側に傾斜しているところの走行 等

## 介助の仕方

介助者援助をお願いしてください。

介助者の方は、段差を乗り越える場合は、ティッピングレバー（プレート）を踏んでキャスト（前輪）を上げ、段差に乗せてから、後輪を浮かし乗り越えてください。



### ⚠ 注意

- バックサポートパイプのみで、キャスト（前輪）を上げないでください。バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒事故の原因となります。
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。使用者が車いすから転落して事故の原因となります。

してはいけない

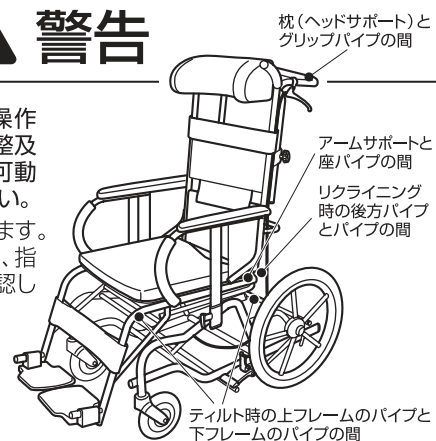
### ⚠ 警告

- ティルトレバーやリクライニングレバーは操作をする時以外は、絶対にあやまって操作しないよう十分ご注意ください。突然予告なく座面や背面が傾くと、ユーザーは大変怖い思いをしますし、場合によっては介助者もケガをする恐れがあります。

していただく

### ⚠ 警告

- ティルト及びリクライニング操作中やアームサポートの高さ調整及び枕の高さ調整の動作中は、可動部に手や指を入れないでください。指などをはさまれる恐れがあります。操作前には、必ず衣服及び手、指の巻込みの恐れがないか、確認してから可動してください。



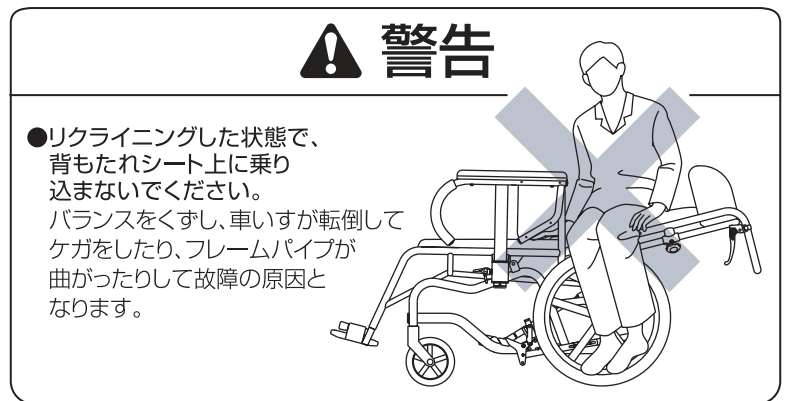
していただく



**警告**

●車いすのシートの上で立ち上がらないでください。転倒事故の原因となります。

してはいけない



**警告**

●リクライニングした状態で、背もたれシート上に乗り込まないでください。バランスをくずし、車いすが転倒してケガをしたり、フレームパイプが曲がったりして故障の原因となります。

してはいけない

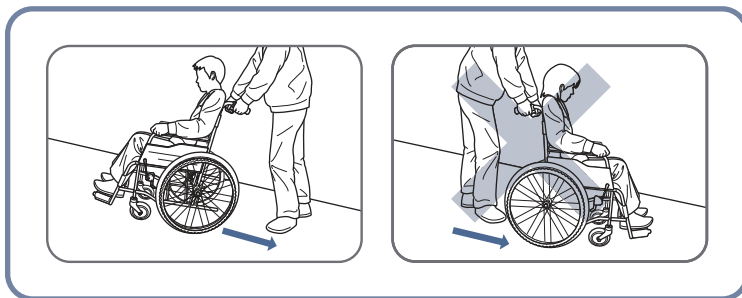
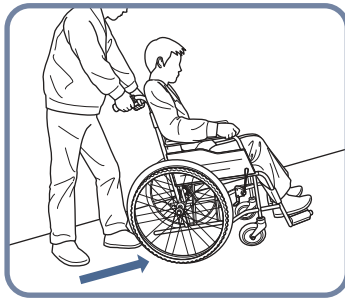
**外出時の注意**

介助者援助をお願いしてください。

坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。

登り坂

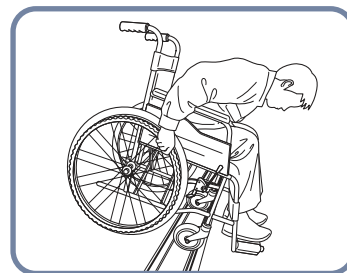
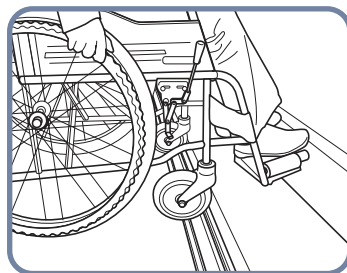
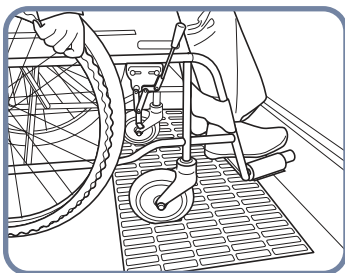
下り坂



**注意**

●坂道を下るとき介助者の方は、車いすを後ろ向きにし、ゆっくり確認しながら走行してください。前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。

していただく



**警告**

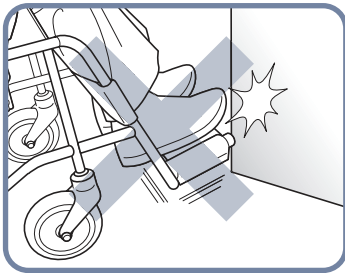
●側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。

していただく

**注意**

●側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転落・転倒事故の原因となります。このような環境条件でご使用される場合は、ワイドキャスト(オプション)をご使用ください。

していただく



【介助者の方へ】

**!** **注意**

●移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

していただく

**!** **注意**

●フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

していただく

**!** **注意**

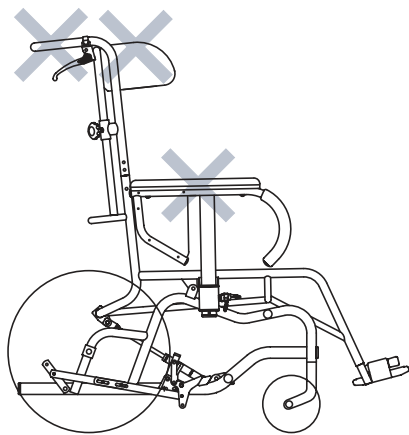
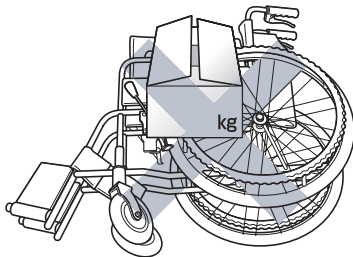
●車いすを、横向きに倒して上に物を置かないでください。  
(重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因になります。)

してはいけない

**!** **警告**

●車いすを持ち上げるとき、アームサポート、ヘッドサポート、グリップパイプは可動部や着脱部ですので、絶対に持たないでください。  
フレームが曲がったり、可動できなくなったりして故障やケガの原因となります。

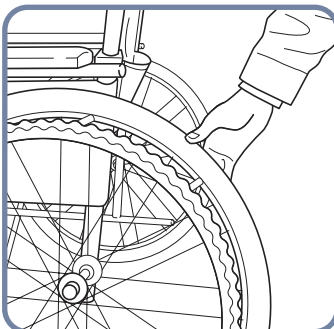
してはいけない



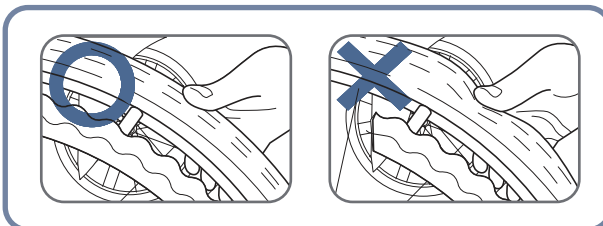
**ご使用の前に**

■安全にご使用していただく為、次の確認をお願いします。

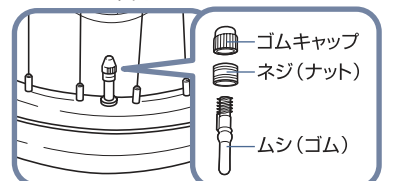
- ・タイヤの摩耗・亀裂はないか。
- ・タイヤの空気圧は適正か。
- ・ブレーキに異常はないか。
- ・ブレーキをロックした時、駆動輪・主輪が回転しないか。



タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、エアを自転車用空気入れで補充してください。  
(最適空気圧:250~300kPa)



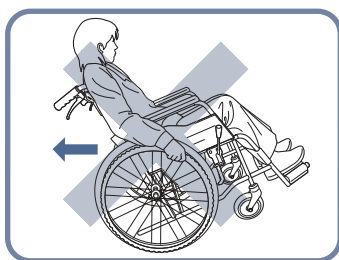
タイヤの空気バルブのネジが緩んでいないか確認してください。



**!** **警告**

●タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。  
(ブレーキのロックができなくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。)

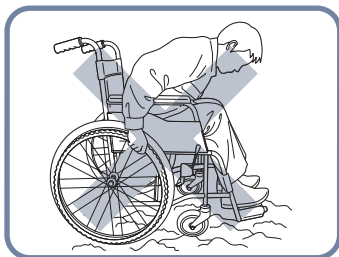
してはいけない



**⚠ 注意**

●バックしながら急停止しないでください。  
(転倒事故の原因となります。)

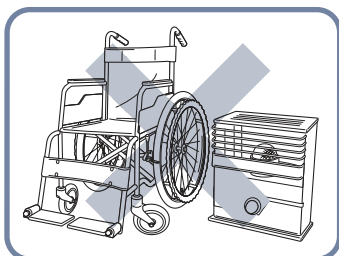
してはいけない



**⚠ 注意**

●凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。  
(バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。)

してはいけない



**⚠ 注意**

●火気の近くに置かないでください。  
(タイヤがパンクしたり、シートが燃え、火災の原因となります。)

してはいけない

## もしこんなトラブルが発生したときは

車いすをご使用されていて故障かな、と思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
タイヤの空気が少ない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
空気を入れてもすぐに抜ける	・タイヤの空気入れ部のネジは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	・ムシゴムが劣化していませんか	ムシゴムを交換してください
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・駆動輪・キャストに髪の毛、ビニールが巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスト(前輪)が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
キャリバーブレーキが効かない	・ワイヤーが、ねじれていませんか	ワイヤーのねじれを調整してください
	・ワイヤーの遊びが多くありませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・タイヤは、摩耗していませんか	取扱店にご連絡してください
リクライニング操作ができない	・ワイヤーのねじれ、引っかかりがありませんか	ワイヤーのねじれ、引っかかりを直してください
	・使用者の体や小物などがはさまっていませんか	取り除いてください
ティルト操作ができない	・ワイヤーのねじれ、引っかかりがありませんか	ワイヤーのねじれ、引っかかりを直してください
	・使用者の体や小物などがはさまっていませんか	取り除いてください
	・車いすに人を乗せていますか	車いすに人を乗せていない状態では、操作が重くなります

# 車いすのお手入れの方法

- 清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。変色したり、劣化の原因となります。ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。
- タイヤの空気圧は、最適空気圧:250~300kPaを適正に保ってください。空気圧が少ないときは、補充してください。
- タイヤには、ひび割れを防ぐ為に老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン（O<sub>3</sub>）
- 光線（日光）、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス（自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤（錆落とし含む））。

- 車いすに異常がある場合は、取扱店で、点検・修理をおこなってください。その状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

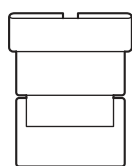
- タイヤの劣化・ひび割れ・空気漏れ
- 各部固定部品の変形
- ボルト・ナット・ビスの緩み
- フレームのひび割れ・曲がり・ガタツキ
- 駆動輪・キャストの変形
- キャリパーブレーキ・ブレーキの効き具合

## シートのお手入れのしかた

- マイチルトシリーズのシートの生地には、ニットとビニールレザー（オプション）の2タイプあります。それぞれ、お手入れのしかたが異なりますので、ご注意ください。

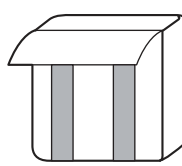
### ニット

- 洗濯機で丸洗いすることができます。 ※シート類を洗うときは、次のことを注意してください。
- オスマジックテープ（手で触って痛い方のマジックテープ）は、洗濯中に他のシートを傷つけてしまいます。オスマジックテープには、当て布をするか、ネットに入れてください。



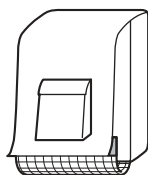
#### 背シート上部&下部

背シート上部と下部のマジックテープをはり合わせたまま洗っていただけます。



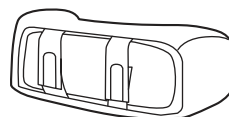
#### 座クッション

オスマジックテープがむき出しになりますので当て布をするかネットに入れてください。



#### 背クッション

背クッションのタレについているオスマジックテープとメッシュ地についているメスマジックテープを合わせて洗っていただけます。



#### マクラカバー

後ろ側のマジックテープをはり合わせて、ネットに入れて洗ってください。

### ビニールレザー

- 汚れは、布で拭きとっていただくことができます。洗濯機のご使用は避けてください。

- 普段は、固くしぼった布で軽く拭いてください。毎日お手入れしていただくと長く清潔に使っていただけます。

※汚れがひどい場合、次のことに注意してください。

うすめた中性洗剤でふき、からぶきをして陰干ししてください。

アルコールやベンジン等の溶剤や漂白剤は使用しないでください。

特に油（頭、手あか等を含む）汚れは簡単に落ちないため、よごれたらすぐに拭きとるようにしてください。

## 保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。  
故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ ●直射日光が当たるようなところ ●湿気の多いところ
- 高温室になるようなところ ●炎天下になるようなところ

## 保証

- 保証期間は、お買上げ後1カ年です。(本体、付属品共)  
ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。
  1. 火災、天災による故障・損傷の場合
  2. 取扱説明書に記載の使用方法・ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
  3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
  4. タイヤの摩耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ、リクライニング・ティルト用ワイヤー、ブレーキゴム等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
  5. 修理に要した運賃等の諸経費
- この保証書は、日本国内のみ有効です。

## アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または(株)松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。